

ヘブル人への手紙8章8節 「新しい契約」

1A 壮大な贖いの計画

1B 最初の人の失敗

2B 流される血による清め

2A 神の確かな約束

1B ノアとの契約

2B アブラハムとの契約

3B ダビデとの契約

4B 約束の方

3A イスラエルとの契約

1B モーセの契約

1C 律法の遵守

2C 祭司の王国

2B 失敗する歴史

1C 背を向ける民

2C バビロン捕囚

4A 新しい契約

1B 神の真実

2B 契約を破った民

1C 石の板

2C アダムからの罪

3C 律法による罪定め

4C 罪の供え物

3B 心に置かれる律法

1C 神から離れたアダム

2C 御霊の傾注

4B 人格的關係の回復

1C 行いによる報い(しもべ)

2C 一方的な恵みによる義認

3C 主の知識

5B 罪の完全な赦し

本文

今朝は、新年礼拝にふさわしい、説教の題名になっています。「新しい契約」です。神が、ご自分

の民と結ばれた契約を、新しくしてくださった。更新してくださったという事を見ていきます。聖書箇所は、ヘブル人への手紙の続きです、8 章です。午後礼拝で一節ずつすべてを読みますが、今は、8 節を読みます。「神は人々の欠けを責めて、こう言われました。「見よ、その時代が来る。——主のことば——そのとき、わたしはイスラエルの家、ユダの家との新しい契約を実現させる。」

1A 壮大な贖いの計画

今朝は、天地を造られた神、永遠の神が、ご自分の造られた人を取り戻すために、どのようなご計画を立てておられるかを見ていきます。

1B 最初の人の失敗

主なる神は、人をご自分のかたちに似せて造られました。人が、神により頼み、この方の言われることを聞くことによって、神の造られたものを支配するようになされていました。ところが、最初の人アダムが、善悪の知識の木から、実を取って食べてしまいました。主は、それを取って食べたら死ぬと言われていたのにも関わらず、です。死というのは、神との結びつきにあるいのちから離れることです。神から離れることによって、霊において人は死に、肉体においても死んでしまいます。

2B 流される血による清め

アダム、そして妻のエバが罪を犯して、神がエデンの園の中で歩いておられると、彼らは身を隠してしまいました。神と人との関係が断絶してしまったのです。そこから、神は、ご自分の造られた人を奪還するための働きを始められます。まず、預言を行いました。女の子孫が、女を感わした蛇の子孫のかしらを打ち砕くという預言です。これが、救い主、メシアの、初めての預言になります。

罪によって人は神から離れたのですが、取り戻すべく、その罪を赦し、清め、それから受け入れるようにしていかなければなりません。それが、「いけにえ」であります。罪を犯す魂は死ぬと、エゼキエル書にあります。身代わりの死によって、その人の罪がその死によって償われて、受け入れられます。その流された血は、その人を清めることになります。私たち日本人は、水の洗いは清めるという意味はありますね。けれども、それは表面的です。私は以前、子供たちに教えていた時に、「自分が悪いことをして、例えば嘘を付いたりした後に、どうやってきれいになれるかな？石鹸で身体を洗ったら、きれいになれる。」と聞きました。みんな、大きく首を振ります。

私たちの心と思いで犯した罪は、血が流されることによって清められます。それはまるで、人工透析をして、血液の老廃物を取り除いて、また体内に入るように、罪を犯していない血が身代わりに流されることによって、清められるのです。

2A 神の確かな約束

そこで、神は、人との間に、確固たる関係を回復するために、契約を結ばれます。男が女と結ば

れるために、誓約を交わすのと同じように、主は、人をご自分のところに取り戻し、その関係が引き裂かれないように、契約を結ばれるのです。主は、人に対して圧倒的な憐れみをもって、ご自身に責任を負わせる形で、約束をもって契約を結ばれます。

1B ノアとの契約

その始まりが、ノアとの契約です。人々が思っていることが悪に傾き、激しく墮落していました。それで主は、ノアとその家族を箱舟によって救い、全ての生きているものを滅ぼすことをお決めになりました。そして洪水が起きて、水が引いてから、ノアたちは箱舟から出てきました。その時にノアが行ったのは、全焼のいけにえを献げたことです。そのいけにえの芳ばしい香りがかれて、こう言われました。「創世 8:21-22 わたしは、決して再び人のゆえに、大地にのろいをもたらしはしない。人の心が思い図ることは、幼いときから悪であるからだ。わたしは、再び、わたしがしたように、生き物すべてを打ち滅ぼすことは決してしない。この地が続くかぎり、種蒔きと刈り入れ、寒さと暑さ、夏と冬、昼と夜がやむことはない。」そして契約を結ばれて、そのしるしとして、虹を与えました。

2B アブラハムとの契約

しかし、人はまた失敗しました。主は、ノアに対して、人々が増えて、地に満ちなさいと言われたのに、彼らは一つ所に集まって、町を建てて、塔を作って、天に届こうとしました。それで、主がことばをばらばらにされて、彼らは世界に散らばったのです。言語ごとに彼らは集まったので、それで民族ができてきます。

しかし、主は、それでもご自分の造られた者たちをあきらめません。今度はなんと、ご自分の呼びかけに応えた人物を通して、彼から新しい民、新しい国を造ることをお決めになったのです。その人物とは、アブラハムです。主はアブラハムに祝福を約束しました。子孫が数多く生まれて、強い国となり、また、その子孫の中の一人によって、全ての国々が祝福を受けるという約束が与えられました。そして、子孫には、カナン之地を与える約束されました。そして契約を結ばれましたが、そのしるしが、割礼です。男からの子種が、神の民になっていることをしめす、しるしになりました。

3B ダビデとの契約

そして、アブラハムはイサクを生み、イサクはヤコブを生み、ヤコブから十二人の息子が生まれます。そして彼らは、エジプトに下ります。そこで大きく増え広がります。そこで、ファラオが彼らを虐げますが、主は彼らをエジプトから連れ出します。そして、彼らは神の民となることを、シナイ山のふもとで宣言されるのです。

そして、この民が約束の地に行き、そこに住み着き、そこでユダ族のダビデが、王となります。そのダビデに、アブラハムへの約束である子孫が、神の国を受け継ぐ王となることが約束されるのです。「Ⅱサム 7:12-13 あなたの日数が満ち、あなたが先祖とともに眠りにつくとき、わたしは、あ

なたの身から出る世継ぎの子をあなたの後に起こし、彼の王国を確立させる。彼はわたしの名のために一つの家を建て、わたしは彼の王国の王座をとこしえまでも堅く立てる。」それは、単に、ダビデの王国を建てるのではなく、とこしえまでも建つ神の国だということです。

4B 約束の方

このようにして、アブラハムの子孫に祝福が、そして、ダビデの世継ぎの子から現れ、永遠の神の国が建てられます。その子孫、世継ぎの子が、イスラエルの待ち望む救い主、メシアになります。そこで、新約聖書の、最初の言葉をお読みください。「マタ 1:1 アブラハムの子、ダビデの子、イエス・キリストの系図。」なのです。イエスが、イスラエルが待ち望んでいるキリストご自身なのだよ、ということ、アブラハムの子孫であり、ダビデの子であることを語って、マタイは示しているのです。

3A イスラエルとの契約

このようにして、神は、契約によって人との関係を取り戻そうとされています。それを神の救いといいます。人が神から離れてしまったけれども、神はご自身のもとに、メシアによって元に戻すことを、救いと呼び、また贖いも言います。

1B モーセの契約

1C 律法の遵守

一つ、私が先に語らなかつた、大事な契約がもう一つあります。それが、イスラエルの子らが、エジプトから出てきて、シナイ山で結ばれた契約です。モーセが仲介者となり、神が律法を与えて、それを守り行うなら、祝福されるというものです。主がアブラハムに対して、祝福の約束を与えられましたが、アブラハムが主の命令に聞きしたがったように、イスラエルの民が、国民として主の命令に聞き従って、それで祝福の約束が与えられるという契約でした。

2C 祭司の王国

主が、モーセに対して、イスラエルの民に告げなさいと言われた言葉を読んでもみます。「出 19:5-6 今、もしあなたがたが確かにわたしの声に従い、わたしの契約を守るなら、あなたがたはあらゆる民族の中であって、わたしの宝となる。全世界はわたしのものであるから。あなたがたは、わたしにとって祭司の王国、聖なる国民となる。」これが、イスラエルの子らにあなたが語るべきことばである。」主が、イスラエルをエジプトからここまで連れ出してくださいました。それゆえ、主の声に従って、契約を守るならば、神の宝の民となります。

2B 失敗する歴史

1C 背を向ける民

ところが、イスラエルの民がモーセを介して契約を神と結ぼうにも、すぐに彼らは神の命令に背いて行きました。モーセがシナイ山で、主から律法を聞いていた時にすでに、そのふもとで、金の

子牛を造って、戯れていました。そして、シナイ山から旅立っても、不満は鳴らすは、約束の地に境にまで来たのに、エジプトに戻るというは、主を試すことばかりやっていました。

そして約束の地に入ったのは良いものの、ヨシュアが死んだ後は、すぐに周りの住民の神々を拝み始め、それで周囲の民から虐げられるという時代に入ります。士師の時代ですね。預言者サムエルの時に霊的復興があり、ダビデの時代には、民は主に従っていましたが、息子ソロモンが王となって、彼の晩年に、彼自身が他の神々に気が向いてしまって、主のみこころを損ないました。

2C バビロン捕囚

そして、ソロモンの死後、王国は二つに分裂します。その歴代の王たちは、主を求める善い王もいたのですが、多くが、主から離れて、ついに、北イスラエルはアッシリア帝国によって滅ぼされ、捕え移されました。南ユダは、バビロンによってエルサレムが滅ぼされ、捕え移されました。

4A 新しい契約

このような背景があつて、それで、新しい契約についての預言があつたのです。ヘブル書 8 章 8 節以降に、著者が引用している箇所は、エレミヤが預言したものです。31 章 31-34 節からのものです。エレミヤは、ユダとエルサレムがバビロンによって滅ぼされる直前に、主が遣わされた預言者であります。バビロンによって彼らが滅ぼされることを預言しましたが、それは、彼らが主に背いてきたからです。しかし、その後、主は、モーセを介して与えられた契約を、新たにすると約束してくださったのです。主は、決して、ご自分の民を見捨てておられなかったのです。

1B 神の真実

ヘブル 8 章 9-12 節までの言葉を、ざっと見ていくと気づくことがあります。それは、主が、彼らのためにすべてのことを行ってくださることです。10 節には、主語が「わたしが」「わたしは」がずっと並んでいることに気づきませんか？ 12 節も、「わたしが彼らにあわれみをかけ」とあります。主ご自身が、民にあわれみをかけて、主が成し遂げてくださるのです。

モーセの時の契約は、彼らが、主の命令に聞き従うならば、これこれの祝福が来る、というものでした。彼らが忠実に従い、従順になっていることが前提の祝福だったのです。しかし、新しい契約は、主ご自身がどんなことがあつても彼らを救われるという、神の真実に基づいた約束なのです。実は、これが主のみこころで、ノアとの契約の時にも、他の契約の時にも、主が一方的に憐れんでくださり、彼らのために良くしてくださる内容なのです。

ここに、キリストの福音があります。それは、神の恵みなのです。神が憐れみ深い方で、愛なので、主ご自身が、私たちに関わらず、良くして下さいます。しかし、私たちが神のことを考えると、自分が何か良いことをするから、神が良くして下さると思ってしまうのです。しかし、人は、どれだ

け罪深く、イスラエルの民がたどった道を見ればわかる通り、自分たちで自分を救うことができないのです。ですから、神がご自分の愛を惜しまなく注がれることによって、人を神に立ち返るようにされました。神の慈愛が、人を立ち直らせるのです。

2B 契約を破った民

そして次、ヘブル 8 章 9 節を見てください。「その契約は、わたしが彼らの先祖の手を握ってエジプトの地から導き出した日に、彼らと結んだ契約のようではない。彼らはわたしの契約にとどまらなかったのだから、わたしも彼らを顧みなかった。——主のことば——」イスラエルの民は、モーセによって与えられた契約を破ってしまいました。

律法というのは、よく見ていくと、実は、何かを待っているかのような書き方がされています。律法を守り行って、それでいのちを得ることができると書かれているのですが、しかし、律法をことごとく破ってしまうということも、それとなく初めから語られているのです。モーセが、死ぬ前に、約束の地を目の前にしてイスラエルの語ったその言葉には、彼らが主に背いて、呪われて、捕囚の民になることを延々と語っています。律法を守り行うだけでは、どうにもできないということも醸し出されていて、それゆえ、完全なる方、メシアが来られることを切に待ち望むように仕組まれています。完全な方が来られて、その方にあって完成するのだということを、教えていく導き手のような役目を果たしているのです。

1C 石の板

律法は、初め、石の板に書き記されました。そこにある神のことばを、守り行いなさいという言いつけで始まっています。

2C アダムからの罪

けれども、それをイスラエルの民は、すべて守り行うといった矢先に、舌の根が乾かぬうちに、破りました。なんでそうなるのでしょうか？ 律法が悪いのではありません。罪があるからです。アダムが罪を犯して、その子孫にも罪が受け継がれているからです。生まれた時から、すでに罪の性質を持っているからです。ですから、これこれを行いなさいと命じられても、それを行わず、行ってはいけないと禁じられても、それを行おうとしてしまいます。

3C 律法による罪定め

それで、律法で行ってはいけいないと言われていることを、むしろ、ことごとく行ってしまったのです。律法によって、その人が義を行うのではなく、むしろ、背きと違反が明らかにされていきます。そこで、自分は罪人であり、罪の報酬は死であるということを知るようになります。それまでは、自分はそこその人間だと思っていたら、全くそうではないことが明らかにされたのです。なぜなら、律法には神の良さ、正しさ、聖さが啓示されているからです。今まで、そこその人間だと思ってい

ても、それはほかの人たちと比べてのことであり、神ご自身と比べてのことではありません。しかし、律法によって、いかに自分が罪深いかを、自分自身が気づくようになるのです。

4C 罪の供え物

それで、律法には、初めから罪を人がおかすことを前提とした制度があります。それは、神が、アダムが罪を犯したときに備えられたものです。いけにえです。牛や羊を屠って、血を流します。そして、祭壇の火で焼きます。人々が、いけにえが流す血によらなければ、神に近づけないことを、律法自体が教えているのです。律法を守り行って、そのまま、神のいのちを得ることができるのではないことを、初めから分かっているのです。

ここで、なぜキリストが十字架にかかったのか、その理由を知るヒントになります。この方は、罪を全く犯されませんでした。けれども、罪人に定められ、十字架ではりつけにされました。それは、この方が私たちの代わりに身代わりになって、罪のいけにえとなられたからであり、その流された血によって、罪が取り除かれるためです。イエスの流された血こそが、新しい契約のしるしとなったのです。主が、最後の晩餐でこう言われました。「ルカ 22:20 この杯は、あなたがたのために流される、わたしの血による、新しい契約です。」このようにして、主は、律法の求めていることを満たされました。この方こそが、律法が待ち望んでいたもの、律法を完成される方だったのです。

3B 心に置かれる律法

そして、ヘブル 8 章 10 節を見てください。「8:10a これらの日の後に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこうである。——主のことば——わたしは、わたしの律法を彼らの思いの中に置き、彼らの心にこれを書き記す。」これが、驚くべきことです。律法は、石の板に書かれていました。しかし、主は、新しい契約において、心の中に書き記すと言われています。

1C 神から離れたアダム

石の板、あるいは巻物に書き記されている文字を守ろうとしても、それができないどころか、ことごとく破ってしまうのは、自分の心が罪で汚されているからです。アダムが神に罪を犯して、神から離れた時に、その霊は神から離れているため、罪を犯さざるを得なくなってしまうのです。

2C 御霊の傾注

だから、心が変わらなければ、どうしようもありません。けれども、心が変わるのは、自分自身ではできないのです。そこで、主は、ご自分の御霊を人々に注がれるのです。エレミヤと同じ時代に、エゼキエルという預言者がいました。神は彼を通して、御霊が注がれることによって、人々の心を、神の命令を聞くことできるように新しくされることを約束されました。「エゼ 36:26-27 あなたがたに新しい心を与え、あなたがたのうちに新しい霊を与える。わたしはあなたがたのからだから石の心を取り除き、あなたがたに肉の心を与える。わたしの霊をあなたがたのうちに授けて、わ

たしの掟に従って歩み、わたしの定めを守り行うようにする。」

4B 人格的関係の回復

そしてヘブル 8 章 10 節の続きを見ると、「わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。」とあります。主が、自分にとって個人的な、人格的な関係を持った方になります。そして主にとっても、自分が個人的に、人格的に関係を持った存在となります。神が単に神ではなく、私たちの神になります。そして、自分たちが、神にとって、この方の民になるのです。

1C 行いによる報い(しもべ)

もし、これが行いによる関係であれば、ちょうど労使関係のように、仕事をして、その報酬を得るような関係になってしまいます。

2C 一方的な恵みによる義認

けれども、神の本質は愛です。そして恵みです。ですから、神は人と人格的な関係を持ちたいと願われます。それで、一方的に恵みによって、たとえ不敬虔であっても、ご自身を信頼する信頼のゆえに、正しいと認めてくださるのです。それで、愛の関係の中に入れます。

3C 主の知識

そして 11 節を見てください。「彼らはもはや、それぞれ仲間に、あるいはそれぞれ兄弟に、『主を知れ』と言って教えることはない。彼らがみな、小さい者から大きい者まで、わたしを知るようになるからだ。」主の御霊が注がれています。ですから、主ご自身がその人の心に現れてくださいます。そして、教えてください。主を知ることが、御霊によることで、互いに知りなさいと教えなくてもよくなるということです。

5B 罪の完全な赦し

そして 12 節が、大いなる恵みです。「わたしが彼らの不義にあわれみをかけ、もはや彼らの罪を思い起こさないからだ。」罪を完全に赦し、思い起こもしないのです！これがすごいことです。罪の赦しについて、こんなことを言われたらどうでしょうか？「私は、あなたの罪を赦すよ。でも、あんなことをしたよね。」思い起こさせたら、赦されたと思えません。赦して、そして思い起こさないのです。私たちの方が、思い起こすのではないのでしょうか？主に対して、ああだこうだと。ところが、主は、「はあ～、何のこと？」と言われるでしょう。これほど、罪の赦しは完全なのです。

これらが、新しい契約です。神と私たちの関係が、180 度変えられた契約です。そこには、神が決して私たちを見捨てず、ご自身のところに戻ってくるための、究極の備えがあります。